

# 1 ミミア姫

田中ユタカ



## ミミア姫 1

田中ユタカ

9784063144635

1929979005627

雑誌 55723-63  
ISBN978-4-06-314463-5  
C2979 V562E (0)  
アフタヌーンKC 講談社  
定価1480円(税別)

生まれたお姫さまの背中には、  
光の羽根がありませんでした。

「ここ『世の裏』は天国とも呼ばれているのだそうです。

わたくしには  
生まれた時から光の羽根がありませんでした。  
他の人のような『ちから』を持ちません。

でも、悪いことはありません。

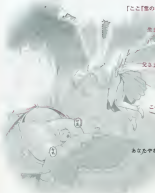
父さまと母さまが天啓に育ててくださいました。  
姉さまはいつも励ましてくださいました。

もうすぐ13歳のお誕生日です。

わたくしの家は  
この世の最初の子どもたち——『神さま』と  
同じなのだそうです」

これは  
小さなお姫さまの物語。

あなたやわたくしがこの世に生まれてくるための物語。



# ミミア姫

## 1

「雲の都」のミミア姫  
― 失われた記憶をさがして ―

田中ユタカ



あやめいさのこころを  
あやめいさのこころを

## 目 次

### 第1章

「雲の都」のミリア姫

— 3 —

### 第2章

ミリア姫、育つ

～光の御伽の国の子ども～

— 35 —

### 第25章

年越し・「冬の祭」

～人の歴史の巻物～

— 67 —

### 第3章

春とお姫さま

— 92 —


### 第4章

ミリア姫の誕生祝い

— 123 —

あとがき

— 178 —

A black and white illustration of a snowy landscape. A path leads from the bottom center towards the top, flanked by snow-covered ground. Several dark, silhouetted trees are scattered along the path and in the background. The overall scene is quiet and wintry.

お姫さまは  
遠い旅をやってきました

そして  
星の愛し子に  
言いました

「大丈夫  
さあ生まれてきなさい」と



第1章 「雲の都」のミア姫

遠い遠い  
青空の中にある  
やすらかな  
くに……

「雲の海」P・ヤマモト

他の世界の人たちからは  
「天国」と呼ばれたりも  
しているそうです……



わたくしが  
生まれたのは

雪でまっ白になった

寒い寒い  
明け方だった  
そうです……

ご誕生——ッ!!



お生まれに  
なりました  
——ッ!!



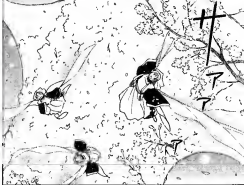
お籠さま——ッ!!

お子も  
奥方さまも  
ご無事です!!











「しばしの再会を  
よろこぼう」

「闇より来たりし  
新しき  
きょうだいよ」

「今日よりは  
光の星を  
共に舞おう」

「ようこそ!!」



「ようこそ!!」

「お前は  
もうしばし  
お静かを」

「いくつか  
練習をして  
いますから」

ああ  
待つとも  
待つとも



とにかく  
大事がなくて  
本当によかった

今度の産ほど  
不安でたまらなかった  
ことはない……

不思議だった……は  
ない……

今度の子に関することは  
まったく  
「みる」ことができなかった

どんな子が  
生まれてくるのか？  
無事に生まれてくるのか？

何ひとつ  
みえなかった  
のだ

母親も  
父親で郵いもの  
神官でもある  
わたしも……

誰ひとりとして

あの子のことには  
手知できなかった  
……



それに食糧でいくら  
賑うかけてみても  
胎の中からは  
反応はない……

覚悟です……すく  
言っている……  
いうのに……



まるで  
わたしたちを助けることが  
金銭とばかりな存在の  
ようだった……

静かだった  
よ……



そのこと  
ですが……

ん……



「神さまの子」  
なのでは……



この星の直接の子ども  
——「神さま」の姿を  
受け継いで生まれてきた

「神さまの子」……

ホヤ

ホヤ

ホヤ







わたくしは  
ミミアと  
名付けられました

新しい  
お姫さま

「神さまの子」の誕生を  
雲の都じやうが  
祝福しました

父の「明けの館」には  
都の果てからもち  
お祝いの「祈りの心」が  
送り届けられて  
きました

毎日増えていく  
大人から老年者から  
小さな子どもからの  
贈り物で  
館のホールは  
あふれました



でも  
わたくしの家族は  
父と母は  
それどころでは  
ありませんでした

生まれて  
間もないころの  
わたくしです

髪の手も指も  
全然ないせいで  
なんだか凶悪そうに  
見えます

病気がかりする  
とても強い  
赤ちゃんだった  
そうです

この世に生まれた  
わたくしの生命は  
今にも消えそうに  
弱くて小さな火  
でした

他とは違う  
「神さまの子」  
雲の繭の人の持つ  
「ちから」や  
医療技術の恩恵に  
浴することが  
できません

父と母は  
開うしか  
ありませんでした







そうっと鼻を吹きかける  
ようにして  
わたくしの生命の  
小さな火を





わたくしのかんじやくは  
尋常なものではなく  
一度起すと  
涙も声も枯れ果てるまで  
治まらなかつたということです



よし  
よし  
よし



平とよとは  
あんなに  
泣くものなので  
しょうか……

何々の  
病氣では……

いや  
病氣では  
ないんだ……

雲の部の  
普通の子どもなら  
全員の「きこいはなす」の  
「ちから」で  
まず脳と心や気持ちの  
共有をおぼえます

ひとりでやないと  
わかります

全部わかつてもらえれば  
安心をおぼえます



きこい  
はなす  
きこい  
はなす

きこい  
はなす

きこい  
はなす

だけど  
「ちから」を持たない  
「神さまの子」は  
泣くしかありません

愛死に途がないと  
生命がけで泣かないと  
わかつてもらえません

ひた切けちです



うえ  
ああ  
あーん

ああ  
あーん

わたくしの心は  
そんな切ないことを  
まずおぼえなければ  
なりませんでした









父さまと  
母さまと  
それから  
姉さまが

何度も  
何度も  
くり返し  
わたくしに  
してくれた  
お話……

お母さん……

大丈夫……

こわくないよ……  
かなしくないよ……

あなたの姿は  
ひとの本当の姿です……  
大切な本当の姿です……



光の羽根を持たない  
この星の最初の子どもの  
姿です……



光の羽根がないので  
空を飛べません  
未来のこともみえませんが  
心でお話することも  
できません

だけど  
子どもたちは

わからなくても  
みえなくても  
それでも  
未来を切り拓いて  
いきました

決して一体にはなれなくて……  
さびしくても  
わかりあえなくても  
それでも  
共に生きようと  
手をにぎりあいました

空を飛ぶ羽根を  
持たないから

地面の上を一步一步  
子どもたちは  
歩きました



間違ったり  
つまずいたりしても  
子どもたちは  
歩きつづけました

そしてとうとう  
青空よりも遠い  
星の宇宙にまで  
旅に出ました

闇の底で始まった  
生命は

そのようにして

あなたやわたしの  
ところにまで  
はこばれて  
きたのです

ミミア  
忘れないで

あなたの姿は  
この星のすべての生命によって  
紡がれ……  
受け継がれ……  
伝えられて……

いま  
ここに  
あるのです

だから

大丈夫……



あなたの姿には  
いっばいの勇気が  
つまっています

父さまと  
母さまと  
それから  
姉さまが

くり返し  
何度も  
してくれた  
このお話は

わたくしにとつての  
神話に  
なりました

わたくしの  
いちばん最初の  
思い出です

ケホ、

ケホ、

言葉をしゃべりはじめたばかりのころのことだと思っています



まさかと  
思いました

でも幼いわたくしは  
本当に言っただ  
そうです……

死にたい……

意味がわからずの  
ことではなかったの  
でしようか

わたくしは  
両親に向けて  
言ったのだそうです

その時

「死にたい……」

わたくしは  
見家じい

お父さんと  
お母さんが



泣いていました

お父さんの両眼<sup>りょうがん</sup>から  
お母さんの両眼<sup>りょうがん</sup>から  
涙が噴き出し

大きな大きな  
涙のつぶが

わたくしの上に  
どんどん  
降ってきました







これは  
父さま  
母さまの

心だ!!

心だ………!!

なんて  
熱くて……

あ……

なんて  
痛い……

「ちから」を持たない  
わたくしが  
はじめて触った  
心の感触……

あ……

心はちゃんと  
ある……

ちゃんと  
触れるんだ!!



わたくしが  
はじめて触った心は  
ものすごい悲しみ  
でした



ではど  
おぼえたでの言葉は  
会ったなくて.....



ほっぺたの上で

わたくしの心と  
父さまの心と  
母さまの心が

混ざり合いました



ミミア!!  
おまえの心  
ちやんと  
聞こえるよ!!



聞こえているよ!!



ミミア…

ふああ…

ああ  
よかった……!!

ふえあ  
あああ!!

わたくしは……



ひとりぼっちじゃ  
なかったんだ









た

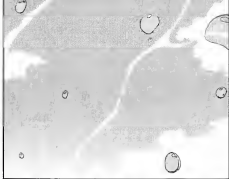


た

た

わたくしには  
お父さんと  
お母さんから  
もらった  
2本の脚がある





水の中から  
見上げた  
空は

とてもとても  
高く  
澄んでいました

同じくらいの高さ

自力で本が  
読めるように  
なりはじめました



わたくしはもう  
夢中になりました

なんて  
すごい!!



文字と言葉があれば  
わたくしにも  
いろんな人と  
考えや想いを  
分かちあえるのです!!

書の人とも  
遠くの人とも  
心を通わせることが  
できるのです!!





なんて  
すごい！！



学者である  
父さまの大きな書庫は  
わたくしにとつては  
すばらしい魔法の森でした

続くのは三度で  
毎日読んでみれば  
寝床に行かなくて



読めない本  
わからない言葉  
は金うこき



わたくしが特に  
心ひかれたのは  
物語の本たち  
でした

寝る前に  
母さまが読んでくれた  
絵本の続きが  
そこにありました



偉大を冒険や  
不思議な国や  
恋のおはなしたち



空の彼方へ  
吸い込まれていくような  
感じがする  
あこがれるような  
寂しいような気持ちで  
じーんとしています

時にはかわいくらい  
胸の奥がきゅりゅとなつて  
涙があふれる気持ちに  
なっています



ふむ!!

それは  
ミミア様ご自身が  
いずれ遠い旅に出られる  
宿命にあるのを  
感じ取って  
おられるのでしょうか



クルスリの姫さまは  
わたくしの眼をそうつと  
のぞきこまれて  
そのおつしやいました



わたくしが？

遠い旅……  
ですか？



ええ

きょうで  
ございます

クルスリの姫さまは  
よく館の中へ  
日なたはうに  
みえられます



たいそう  
お年を召されているので  
光のお別れも  
もうほとんど失されて  
しまっています

どでも物知りで  
わたくしの子どもたちに  
いつも不思議で  
おもしろいおはなしを  
してください



ことによると  
ミミア様の旅は  
世界の外へ  
空のむこうの空への  
旅となるやも  
しれませんね

世界の外……うー

この空のむこうにも  
また別の空が  
あるのですか？



ええ  
空のむこうの  
そのまたむこう……  
そのまたちやに  
ずつとずつと  
むこうまで  
です……

よいですか  
ミミア様……

この娘が  
大事な世界の秘密を  
教えてさしあげて  
おきましよう……

宇宙は  
ひとつきりのものでは  
ないのですよ

世界や時間というものは  
さまざまな姿をして  
数かぎりなく存在し  
つながら重なり合って  
果てしなく  
拡がっているのです

「雲の都」も  
無数にある世界のなかの  
ほんのひとつに  
すぎないのですよ

なんだか  
違ふもな  
おぼしです

他の世界の者からは  
わたしたちが  
生まれて暮らす  
この「雲の都」は  
死後におもむくべき  
場所だと  
信じられていることも  
あるようですよ……





「天国」と  
呼ばれていた  
りするそう  
です」



いまは「神さま」となってしまうわね  
「この星の初めの子たち」の姿を獲かって  
お生まれになったのは

もういちど  
わたぐしの眼を  
深くのぞかれて  
おっじいしました……

決して  
この世の  
気まぐれでは  
ありませんまい……

あなたがまが無事  
その身に受けた  
宿命を果たされん  
ことを……

そして  
祝福をくださるように  
わたくしに  
そつと——  
口づけなさいました





父さまのかけてくれた  
おまじないは  
船曲に効いたみたいです

赤ちゃんの時  
かよふはのひまこの  
ようだった頭も  
いまでは

薄桃色のくせっ毛の  
丈夫な髪で  
長いおさげを  
編めるようになりました



羽根のない背中を  
冷やさないようにと  
赤ちゃんのころから  
母さまが平ずから  
作ってくださる  
緋のマントも

現在のもので  
7代目になります

最近  
胸が

ほんの少し

ふくらみはじめました…

ほん

わたくしは  
生きのびました





光の羽根も  
なんの「ちから」も  
持たずに  
生まれてきた  
わたくしですが

はい  
みゆきさん

とし  
とし  
とし

今日まで  
こうして  
大きくなって  
きました



愛されたり……  
がんばったりして

クルスリの姉さまには  
遠い旅に出るという  
予言をいただきましたが

あいかわらず  
わたくしの未来は  
予知ができないままと  
いうことです

父さまも母さまも  
「石の大巫女」さまにも誰にも  
わたくしの未来に係わることは  
空白になって  
何も見えないのだそうです……



わたくしは  
物語を書く人に  
なりたいなと  
思っています……  
(まだないんですけど)

ミリア様  
——ッ!!



お誕生日  
おめでとう  
ございま——す

ありがとう  
ございます

今日は  
わたくしの

11歳の

お祝いの日です

「雲の都」は  
青空に果てしなく広がる  
豊かな森の姿を  
しているそうです

それはどんな旅人の眼にも  
たまらなく懐かしい眺めと  
映るのだといいます

## 第25章

年越し・「冬の祭」～人の歴史の物語～

故郷に帰ってきたのだと  
思えるのだそうです

だからここは  
天国とも呼ばれているのでしょうか





天国にも  
季節があります

年越しの夜は  
「まの星」

親がで  
来しい夜



色とりどりの灯りが  
枝々に点され

都は宝石箱のような  
夜になります



子どもたちは  
今夜だけは夜更かししても  
叱られません

親しい人たちは  
集い合い

旅人はそれぞれの  
待つ人たちの下へと  
帰ります

旧い冬を語り、  
新しい春の最初の朝を  
迎えます

ああ

朝が曙りはじめ  
ましたね

ルロウさん

ほん

わが家の旅人は  
やはり帰って  
きませんでしたね

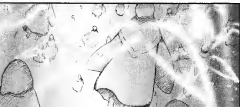














元の羽根を持つ  
きょうだいたちよ

新しい年を  
迎える今夜

我々が何者で  
どこから来たのかを

共に噛みしめ  
共に勉めよう

我々が  
どのような  
責任を負っているのかを  
心しよう



我らは  
星の愛し子の末

この星の  
子ども子ども



——  
人の歴史です



星から生命が降り

やがて子どもたちの  
歴史が紡がれます

子どもたちは  
いつしか地球の主と  
なっていくました



何度も聞いた  
物語です

大切な物語

そして  
怖い物語



耳を塞ぎたくなる場面が  
何箇所も出てきます



悲しくなる

一瞬が正の瞬間

たまたまひくことになる

場面が

いびきで  
いびきで  
出てきます





だけど  
それが  
わたしたちの物語



はるか上空では今  
「太陽」の母さまが  
過ぎた時の祈りを  
捧げています





光の羽根を持つ  
きょうだいよ  
心せよ

わたしたちは  
歴史の結晶の姿として  
今ここにいます

よく目覚めよう

そのことに  
喜びと誇りを持つよう

我々は  
子を受け、親を受け、  
友を受け、することができ、  
大切に想うことができる

隣人の悲しみに  
涙を流すことができる  
魂を汚すことに  
怒り覚えることができる  
他者の幸せに  
心から笑うことができる

これが  
歴史の結論の姿なのだ

忘れてはいけない

我々ひとりひとりが  
人の歴史が決して  
恐怖や憎しみだけでなかった  
ことの証明なのである



星の末の愛し子たる  
きようだいたちよ

生きて死に  
美しい物語を  
また次の愛し子に  
手渡せるよう

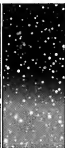
今夜  
古い冬を共に盛り  
新しい春を  
共に迎えよう

喜びを

喜びを

そして  
すべての灯りが  
消され

わたくしたちは  
待ちました……





ラナ姉さまが

新しい春の  
最初の陽の光を  
羽根に含ませて  
はるかな天空から  
連れてきました



「時の鐘」の歌う  
よるこびの歌の光が  
空いつばたに降りそそぎ

みんなの光が  
その歌と共鳴して  
振がってゆきます

朝日をお迎える  
人の光



なんて  
きれい!!



目を覚ますと  
机の上に  
新しい日記帳が  
置いてありました

母さまからの  
贈り物でした

新年のお年玉として

そして  
誕生日のお祝いとして  
でした



そのノートには

生まれてから  
今日までのことを  
まず書いてみました

思いのほか  
いっぱい書くことがあつて

誕生祝いの朝まで  
かかりました



### 第3章 春とお姫さま

わたくしが生まれたのは  
新しい春の最初の朝  
その明け方のことだったそうです

今年わたくしは  
11歳になりました

11歳の誕生祝い  
特別なお祝いを  
します





くせ毛のおさげは  
時間をかけて  
古式ゆかしい形に  
結い上げられた

いい髪ね  
ミミア

ーはい

くるくる回されながら  
綺麗な着を何枚も  
身体に重ねられて  
ゆきました

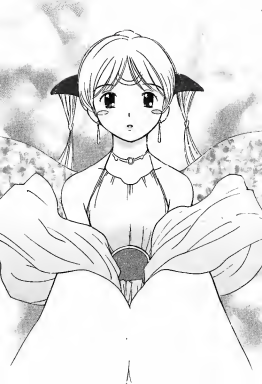
だめ  
いそがしきから  
ごめんね

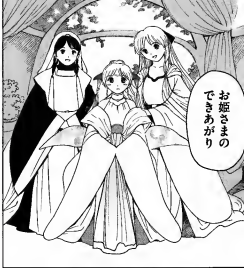
はい

立って……  
こっちです

眼を開けて  
いいですよ  
ミミア







お姫さまの  
できあがり

物語の中の  
お姫さまです……





うん!!  
よし  
かわいい!!

さすがは  
わたくしの  
ミミアです

ああ……  
姫さま

お人形さんの  
ようですよ……



自分で見て  
どうですか?  
ミミア

うん

はい  
……姫様の人  
のようですよ

ええ!! ええ!!  
姫様から抜け出て  
きたようですよ!!



11歳のお祝いで  
はじめて着る  
子ども用ではない  
乙女の晴れ着

ありがとうございます  
結さま  
マナヤさん



え?

え?



あら!!

背中!!

わたくしの  
背中!!

見えすぎです!!



ああ  
姉さま……

おれ

あらあら  
いつも胸を  
にゅるり  
出して

走り回っている  
お姉さんが  
どうしたのですか

背中と胸は  
違います



いけません!!  
姉さま  
こんなもの!

この輩方は

わああ

恥ずかしい  
です!!



姉さま……



乙女の晴れ着は  
こういう輩方が  
正式です

ちゃんと  
しなくてはね

大人をはじめ  
大切なお祝い  
なのですから







今年に  
あつた  
ですね



ああ  
この辺りはもう  
お花ですね

お花ですね











今年  
卒業の前には  
都に帰ってきて  
いたのに……

遅くなくても  
ミリア様の  
誕生祝いまでには  
旅から戻ってきて  
いましたよ

それが  
今年に帰って  
なんて……

わたくしも  
残念です

父と母も  
ですよ

この前であつた  
きょうだいも  
同僚のミロウが  
ミリアの行末の  
お祝いに  
居ないのは……

ほん

あ  
違います  
ミロウさんは  
ちゃんと  
ここに居ます

いぬの  
ミロウさんのこと  
ではありません

人間の  
男の子の

ルロウのことです



一日、  
連絡があった  
とおりですよ

師のシリアルが  
死を疑はすことを  
急に決められた  
そうです

今日出席  
できないことを  
あの子らしく  
実に真面目に  
丁寧に詫びて  
いましたよ

まだ  
思いつくとは  
いえ

おすみライの  
仕事は大事な  
ものなんです  
ねえ……

……  
がんばって  
いるんですよ……

うふふ  
ルロウ殿が  
乙女の胸れ舞を鑑た  
こんなミミア様を見たら  
どんな胸懷を  
したでしょうね？

ちやんとお悦いの  
口上を鑑えた  
でしょうか？

赤くなって  
照れてしまったかも



いんいよ  
あの子も近ごろは  
青年らしく  
なってきましたよ

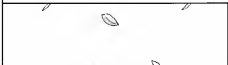
そう  
でしょうか？

ミミア様は  
どう思います？  
ルロウ殿がここに居たら  
どんな胸懷だったと  
思います？

そうですねえ  
……











あ







圖書

42327

になりました。





雲の中……

トクトク  
言ってる……



ぽく……

熱い……





ミミア姫

## 第4章 ミア姫の誕生祝い



11歳の誕生祝いが  
特別なのは  
理由があります



この瞬間になると

身体は共に

立ち上がり、大きく空を

自分の未来を

よりは、走り出した姿で

手拍りをするように

のびのびと



自分はなぜ生まれてきたのか  
自分の運命を知りはじめるのです



もしそれが

運命のあるものだったとしても

自分の運命を知り

自ら引き受けようとすることで

自分の人生が始まるのだと

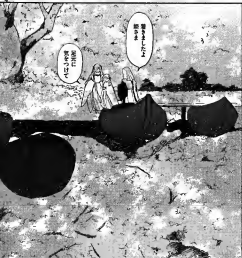
教わります

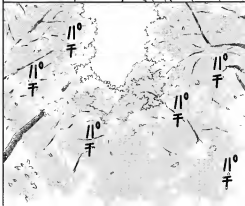
だから

みんなを

お祝いします

心をこめて  
お祝いします









おめでとう  
ございま——す!!

おめでとう  
ございま——す!!

ミミズ姫さま  
——ッ!!

ハ  
〇  
千

ハ  
〇  
千

ハ  
〇  
千

ハ  
〇  
千

ハ  
〇  
千

ハ  
〇  
千

ハ  
〇  
千



A black and white manga-style illustration of a dense, rocky landscape. The scene is filled with numerous trees of varying sizes, some with detailed foliage and others as simple silhouettes. The ground is covered with large, jagged rocks and patches of grass or low-lying plants. A speech bubble is positioned in the upper left quadrant of the image.

友人たちよ  
家族たちよ



私の顔のお祝いだ  
美しい良き春の日だ

たっぷりの料理がある  
自慢の楽器も持ち寄った

前に  
食べよう!!  
歌おう!!  
楽しもう!!

みんな心ゆくまで  
しあわせに  
過ごそうぞ!!



冬柑のブドウ  
花々のゼリー

はかばかの羊

木の葉のクリーム入り  
パンケーキ

ごちそう!!  
ごちそう!!  
ごちそう!!

わあ

わたくしの  
好きなものばかり







「神さまの手」が  
11歳になられる!!  
なんとめでたい  
ことでしょう  
「歳の初」にとっても  
今年は何か予想せざる  
事ばしい出来事が  
防れることでしょう



ととア姉さま  
おめでとう  
ございます



あんなとう  
にやいす





様——ッ!!







今日  
晴れ着を  
着てくださった  
んですね



ミミア様への  
ビツクリ作戦  
成功——ッ!!

うふふふッ!!



ええ!!

聞き  
ました?

あ……  
おイヤ  
ですか!



聞いてるわ……

……  
うれしいです  
……





どうです！  
これ御礼  
ですよ！

姉の先が三角の  
最新流行の型  
ですよ！！



本小姐が  
本道に不器用で

ひどいです  
モルカ様



ですが  
喜ばって  
むすかしいですな

こちらに  
来るのがすっかり  
遅くなりました



「星の都」でただひとり  
誕生日の違う  
わたくしです

ありがとうございます  
——

これほど  
友情のこもった  
贈り物を  
知りません！

一生に一度の  
お祝いの晴れ着を  
わたくしのために  
着ていただいて……



あら!!  
どういたし  
まして!!

わたくしたち  
一生に一度が  
二度に増え  
ましたのよ!!

ミミア様の  
おかげですね!!



モル方様  
アマルナ様  
ネビ様は

わたくしの  
深い友だち  
です



だから  
わたくしたちの  
お祝いの時には  
ミミア様も  
もう一度舞で  
くださることを!!

よろしくです!!

ミミア様!!

はい

わたくしたちが  
遠い方だちに  
なつた経緯は  
また別の機会に  
書きましょう

ではみなさん  
いつものを

せいの



おーい  
天候たち

ごめんが  
まだまだ  
たてきんあるよ

早く  
おいで

それで  
例の計画は  
実行できるの  
とアホ?

はい

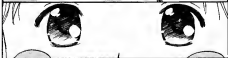
行きましょう

おれども  
君はさつきから  
お前さんといふは

はい











この迫力あふれる  
ご婦人は  
デング様  
「闇の姫」を護る  
サムライの大将で  
ルロウの先生の  
先生です



11歳おめでとう  
ございます

姫さま



おサムライ方の  
御い働き

いつも感謝  
しています



よい姫だ

ふふっ



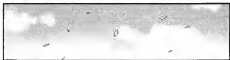
失礼を  
許せよ

本来ならルロウが  
ここに居らねば  
ならんのだがな

サムライの  
任頼ゆえ









「神さまの子」も  
とらえては行かぬ

普通の子ともなら  
その子が何者であるか  
自然ともに見えてくる  
時期だが……

ああ……

誰からの「ちから」も及ばず  
誰にも  
予知することの出来ない  
この世界で  
ただ一人の子ども……

ただ一人の  
わからない存在

私の娘だ……

なぜ生まれてきたのか？  
どのような宿命を果たすべく  
この世界に生まれてきたのか？

そんな

それがどんなものであれ  
いずれは明らかになるよ

さあアにも……  
彼々にも……

その時が来るのを  
待てばいい

だが  
ひと粒の小石で  
あろうとも

その運命は  
水底身体の姿を  
変えてしまう  
ものだ

人の心にも  
不安は確実に  
生まれつつある









さあ

行きますよ!!





11歳になった者は  
羽根の「光」で  
古くからある  
「誕生の歌」を歌って  
祝福に応えます

羽根を拡げて  
しっかりと  
予知をしながら  
未来の運命に対して  
自分の「光」で  
歌います

お祝いの  
最も大事な場面です

「わたくしに  
光の羽根は  
ありませんが



「我が名は  
ミリア」

「父の子  
母の子  
都の子」

「空のきょうだい  
水のきょうだい  
人のきょうだい」

「この星の子どもの子どもの  
いちばん末に  
生まれた子ども」

「この世に迎えてくれたことを  
よろこびます」

「預かった生命に  
感謝します」

11歳の確れ贈を  
贈せて  
いただきました

今日まで

大切に育てて  
いただきました

……だから  
歌えます

「わたしは  
あなたたちの  
子ども」

2本の脚を  
地面につけた  
ままです……

「生んでくれて  
ありがとう  
ございます」

喉からの声  
だけで

歌えます

「育ててくれて  
ありがとう  
ございます」



とても星の美しい  
秋の夜でした



悲しんでいた  
わたくしの傍に  
父さまがいらして  
静かにお話しになりました



本で読んで  
知っていました

毎年の「冬の祭」での  
父さまのお話で  
判ってきていました

失しだけ  
選づいても  
いました



光の羽根のない  
「神さま」の姿は

人々にとって  
とても  
おそろしい  
こわい姿  
でもあります



こめくす

きんぐす

おれでしまい  
たぐす

でも

忘れては  
いけない  
姿……

ミリア……  
おまえはいつか

人の心の中に思いもかけない  
闇や憎しみや恐れを  
見つけてしまう日も  
来るだろう

それが  
おまえに向けられていることを  
見つける……

そんな日も  
来るだろう……

避けることは  
できないと思っ……

父さまも  
守ってあげられ  
ないことだ……

つらい……ただ

だけど  
……わが子なくさない

信じなさい

おまえを  
愛したいと願う心は  
おまえが導くより  
必ず多いからね

だからおまえは  
この世界を

安心して  
愛しなさい

いいね  
ミミア

はいッ!!



わたしたちは  
おまえを  
愛しているよ……

……おれが

母さまが  
甘いお菓子を焼いて  
待ってくれて  
いました

姉さまも  
いました

わたくしたちは  
明るい部屋で  
夜のお茶会に  
なりました



ルロウさんが  
床であくびを  
しました

姉さまが  
得意の歌をひとつ  
教えてくれました







お姫さま!!

「おめでとう」

「おめでとう」

「お姫さま」

まるで雪のように  
見えた

「きょうだいよ  
愛し子よ  
わたしたちは  
あなたと  
共に在る」

あ……

ああ、あたたかい……



血のように  
あたたかい



人の光の雪でした

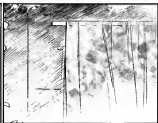
世界を信じて  
いいんだよと

伝えていました





わたくしが「神さま」の姿で  
この世界に生まれてきたこと  
何か大切な理由が  
あるのなら



わたくしにも  
運命があるのなら

いつかそれが明らかになる時  
ちゃんと引き受けられる人にな  
りたいです

そういう人に  
なりたいたい……

ほら  
ルロウさん

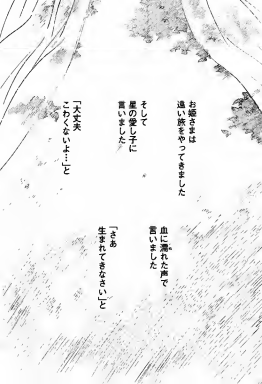
ほん

「運命の少女」にも  
花が咲きだし  
ましたよ

わたくしは  
思います

あー





お姫さまは  
遠い旅をやってきました

そして  
星の愛し子に  
言いました

「大丈夫  
こわくないよ…」と

血に濡れた声で  
言いました

「さあ  
生まれてきなさい」と

## ミミア姫 第1巻

「雲の都」のミミア姫 ～丸の眼鏡のな～子ども～ おわり





それ以外に不滅いといふといふの如く、その精神がいつまでも活動することである。非常に具體的に、人生で大事だと思ふことをために毎日、日記をつけ、努力するのだと思ふようになりますよ。

僕は良い人間になりたいし、良い作家になりたいです。

真面目に大事に日々を生きたいものだと思ひます。

それから「希望なく、自分はどう生きたらどうするか」とも考へます。

僕は現在、どうでも自由であるところよりも、非常に不自由で制限されていながら自由に思ひます。

人間で不自由であるところのほうが、豊く大膽なものだと思ふのです。

僕には不滅はいまありませんが、それでも誰かに運ばれるものを描きたいという気持ちがあります。

いつかあの頃の僕が亡くなって、描きしよる後になるものがあると僕は描きたいと思ひます。

この作品を、良い仕事にしたいと思ひます。

いつも描きしよる筆をよりよく書きしよるたまたまの機会の書です。本意にありません。

おかげさまで、まごころとして讀むの作品でも書かすことが出来ることも嬉しいです。

また、この作品は、初めてお会いする読者の書です。  
「描きしよる」を喜びます。

もしよろしければ、これからは、まごころをよりよくお聞かせいたします。

僕は描きしよる、向上心がある人、その作品が、その一歩です。

そして、「エッセイ」は、村上さんにとっては、描きしよる、その一歩から立ち上げ、その作品になります。

どうも描きしよる、その一歩から立ち上げ、その作品になります。

作品の運命が、大きく変わります。

良い一歩に育つて、いきなり、その一歩です。

よりよく描きしよる、これから描きしよる、その一歩になります。

よりよく描きしよる、その一歩です。

描きしよる、その一歩です。

描きしよる、その一歩です。

描きしよる、その一歩です。

描きしよる、その一歩です。

この作品が、あなたにとって、大きな機遇になりますように。

ではまた、描きしよる、その一歩です。

どうぞ、お気をつけて。

## 田中ユタカ

1966年8月20日、大阪府生まれ。

主な作品

『新選組・ザッパ・ザ・ナイター』(竹書房)

『新選組』(竹書房)

『蒼人』(4冊2011) 全5巻(白泉社)

『愛しのカモ』1巻〜(竹書房)

個人ホームページ

『田中ユタカのページ』

<http://www.toda.sdg.na.jp/yutakatanaka/>

### 刊行一覧

第1巻 『愛の嵐』の12話編(月刊アフタヌーン2007年1月号)

第2巻 12話編、冒険・ヒーローの冒険の嵐(1)と1巻〜(月刊アフタヌーン2007年1月号)

第3巻 中絶し、『愛の嵐』〜人の愛の物語〜(月刊アフタヌーン2007年1月号)

第4巻 巻と巻の間(月刊アフタヌーン2007年2月号)

第5巻 12話編(月刊アフタヌーン2007年2月号)

以上を巻編、第12話編として収録いたしました。

アフタヌーン文庫 C-4 883  
**ミミアア姫 第一巻**  
 2008年7月22日 第一刷発行

著 者 **田中ユタカ**

原 著 五十嵐寛治

発行所 株式会社講談社

定 価 1,200円(税別)

電 話 03-5561-0001

電 郵 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

発 行 03-5561-0001

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

アフタヌーン文庫 C-4 883

# ミリア姫 1

ミリア姫の冒険物語

田中ユタカ

